

追

悼

菅野長右工門先生を偲ぶ



去る令和4年9月15日に菅野長右工門先生がご逝去されました。昭和15年12月14日、福島県生まれ、享年83でした。

菅野先生は、昭和44年3月東京大学大学院博士課程／畜産学専攻を修了、東京大学助手、宇都宮

大学助教授（昭和53年4月）を経て昭和58年12月に教授に就任、平成10年4月から平成14年3月まで農学部長、平成17年12月には学長に就任され、平成21年3月に退職されるまで宇都宮大学の運営・発展に尽力されました。

農学部長としては遺伝子実験施設の実現、環境調節実験棟新設、学長としては、全国初の「宇都宮大学峰ヶ丘地域貢献ファンド」の設立等々の功績を残されています。

先生は一貫して食品・食材としての観点から乳成分の研究に携わってこられ、特に乳脂肪球皮膜関連の業績は国内外で高く評価されています。これらの研究を通して、留学

生を含め数多くの人材を輩出され、本学ならびに東京農工大学連合農学研究科の教育・研究の発展に寄与されました。平成2年には、優れた乳化能を有する乳タンパク質ラクトフォリンの発見により日本畜産学会賞を受賞されています。

このように、永年にわたる教育・研究、大学運営の功績により平成28年秋の叙勲において瑞宝中級章受章の栄誉に浴されました。

大学3年（昭和51年）の学生実験で、“やり直し”と言われたのが私と菅野先生との最初の接点です。先生が宇都宮大学に移られて10年後、助教授を拝命してから17年間、食品生化学研究室で一緒させていただくことになりました。学会やスキー（カナダ仕込みのなかなか腕前でした）、尾瀬合宿など数々の場面が思い起こされますが、今でも鼓膜に焼き付いているのは、就任後まもなく大きなプロジェクトが舞い込んできた時に言われた、“石橋を叩いても渡らないタイプだな”の一言です。

橋がなければ自分で架けてでも渡ろうとされた長右工門先生、安らかに眠りください。ご冥福をお祈りいたします。
（応用生命化学科 名誉教授 東 徳洋）



支部総会（1支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思えます。お問い合わせは、P25の支部長一覧をご参照下さい。支部総会開催の際は、事務局までご連絡ください。

IBARAKI

茨城県支部総会

令和5年7月1日(土)、水戸市内の「ホテルレイクビュー水戸」において33名の出席のもと、茨城県支部総会が盛大に開催されました。

当日は、菊池正蔵支部長（農S46卒）の挨拶に始まり、来賓として同窓会本部から出席いただいた生物資源科学科教授の福井えみ子先生より、総会開催に当たってお祝いの言葉をいただくとともに、コロナ禍での宇都宮大学の近況報告や農学部100周年記念事業等についてご紹介いただきました。

総会ではスムーズな議事進行により、令和4年度収支決算、規約の改正、役員改選についての報告が承認されました。役員改選では、長年にわたり支部長を務めてきた菊池正蔵支部長が退任し、新支部長に平林英男氏（農S51卒）が選任され、また、副支部長についても中島敏之氏（農経S50卒）に代わり小船恵二氏（畜産S57卒）が選任されました。

懇親会は、川崎昇三先輩（農S42卒）の乾杯で始まり、



学生時代の思い出話やお互いの近況等で話が弾み、大変盛り上がりました。懇親会は瞬間に過ぎ、最後は新副支部長の小船氏の挨拶で閉会となりました。

令和元年度以降、コロナ禍で開催出来なかった総会ですが、約4年ぶりに多くの方にご出席いただき、盛大に開催することが出来ました。

最後にご来賓としてご出席いただきました福井先生、並びに同窓会本部事務局に御礼を申し上げます。

引き続きよろしく願いいたします。

（森林H27卒 庄司 直人）